

大相撲九州場所観戦感想記
(15 日間の日記帳)

●初日：雨天の日曜日、畑へ行かず、時間に余裕があるので久しぶりに 16 時半からテレビの前に座った。いつものように、16時から録画をセットしてあるビデオでの鑑賞。

途中から画面上部に地震と津波に関する文字情報が流れ始めたが、どうやら地震が連続発生しているようで、ついに地震に関する報道に切り替わってしまった。

期待していた上位力士の対戦を見ることができず、しかも19時のニュースでも「相撲」のことには全く触れてくれなかった。

ビデオ鑑賞ができた取り組みの中では、時疾風・藤ノ川・平戸海・美ノ海の相撲が光っていた。

●二日目：不運は続くもので、国会中継の関係で相撲中継は17時からだった。さすがに独占中継のNHK、地震報道の犠牲になった初日の取り組みと、今日の国会中継中の取り組みを録画映像で流してくれたので、不満は一気に解消した。

二日目の土俵の中では、義ノ富士に一方的に攻め勝った玉鷲と平戸海を猛攻ではじき返した高安の相撲が素晴らしかった。次代を担う若者に「相撲とはこういうもの」と見せつけたようなベテランの取り口に何とも言えぬ味わいがあった。

幕内の相撲で初日に勝った力士は21人だったが、二日目を終えて無敗の力士は9人に減ってしまった。総当たり制の取組編成なので、無敗の力士の人数は予想を超えた推移を辿ることになる。これが相撲の面白いところだろう。

BS4Kで見れば国会中継に邪魔をされずに全部見られることに気がついたのは終わってからだった。

●三日目：頭で当たった朝紅龍の骨の響きが館内に響き渡り、見事な押しで千代翔馬を破った一番で、中入り後の取り組みが始まった。大栄翔を押し出した藤ノ川の相撲とともに本日のハイライトとなった。二人とも3戦全勝、小柄な力士が正攻法で勝ち進む姿は気持ちがよい。

安青錦は、難敵伯桜鵬を土俵際でのとっさの首投げで転がし、大の里も落ち着いた取り口で若隆景を無難に征して全勝。三日目を終えて、3戦全勝はこの4人になってしまった。

●四日目：今日も藤ノ川・錦富士等の気持ちの良い相撲で前半が始まった。中盤では美ノ海が一山本を送り出した相撲は、巧さと速さの「さすが」と言いたくなるような相撲だった。

玉鷲が平戸海の食いつきを阻止しようとして突き落としをかけたら、それが首筋にあたり、「首ひねり」という珍しい決まり手になった。玉鷲が若手をことごとく退けていく姿は清々しい。

安青錦は今日も頭を上げない姿勢で隆の勝の突き押しを許さず全勝を維持。

4戦全勝は、大の里・安青錦・藤ノ川の3人に減った。1敗の力士は11人。

●五日目：中入り後の口開けは朝紅龍・佐田の海戦。朝紅龍の速さと鋭さが見事な小手投げで大先輩をねじ伏せた。藤ノ川は今日も元気あふれる突きで琴勝峰に相撲を取らせず、5戦全勝。

この二人の相撲には「爽快感」がある。義ノ富士、熱海富士も勢いと巧さの感じられる取り口で白星。この日は、伊勢ヶ浜部屋の全力士がそろって勝ち星を手にするという珍しい日になった。

高安が力強く、若々しい取り口で1敗を堅持しているのが不気味な感じがする。

安青錦は若隆景の変わり身に転がされて1敗に後退。若隆景は体調不良で、真っ向勝負は不可能と見て立ち合いで変化してしまったと思われ、若隆景の体調の悪さを感じた。

序盤を終えて、全勝は大の里・藤ノ川の2人に減り、1敗は9人。

●六日目：朝紅龍と竜電の激突は見応えがあった。最後ははたきこみになったが、見ていてうれしくなるような、力のこもった取り組みで朝紅龍が1敗を守った。藤ノ川はベテラン御嶽海を相手に二本差しになることができたが、巧みに裁かれて1敗に後退。

義ノ富士は素早い動きで休みなく攻めて・美ノ海を寄り切った。速さが光っていた。

安青錦・宇良戦は面白かった。低い姿勢同士の二人が互いに頭を上げずに攻めと守りを繰り返し、手に汗を握る熱戦の末、安青錦が宇良を土俵の外に運んだ。

大の里は平戸海を難なく裁き、速さと巧さと強さを見せつけて、ただ一人無敗を維持した。

後続の1敗力士は6人に減った。

●七日目：1敗の朝紅龍・時疾風・熱海富士が敗退して様相が変わってきた。義ノ富士は、矢継ぎ早の攻めで平戸海に相撲を取らせず1敗を堅持。義ノ富士の相撲には「休みなく攻める」という姿勢が感じられるし、土俵際ではきれいに腰が下りていて安心感がある。

安青錦は果敢に攻める高安を逆転して寄り切り、1敗を守り、大の里は宇良の細かな動きを見逃さず、上手投げで転がした。

中日を前に、全勝は大の里だけ、続く1敗は安青錦・義ノ富士・藤ノ川の3人という状態になった。

●中日：下位の取り組みでは、錦富士の気合のこもった取り口が今日も栈敷を沸かした。

1敗・2敗の力士は星のつぶしあいになり、どんどん脱落。

安青錦は王鵬に攻められながらも土俵際の渡しこみで、ただ一人1敗を守った。攻め込まれても最後の一手で勝ち星を手にする粘り強さが感じられる。

大の里・玉鷲戦にかすかな期待をかけていた。今日は玉鷲の41歳の誕生日なので、本人はかなり気合を入れて場所入りしたことだろうと思う。立ち合いの突進か、土俵際の突き落としか、どちらかが見られるのではないかと期待したのだが・・・。

想像は当たっていた。玉鷲は立ち合いから左で強烈なおっつけをしながら前進、土俵際まで横綱を下がらせたのだが、横綱のはたきにあと一步のところで土俵に落ちてしまった。勝負が終わった後の玉鷲

全勝	大の里	の「ニヤリ」とした表情がすべてを物語っていた。
7勝1敗	安青錦	中日の取り組みを終わったところで、全勝一人、1敗一人という状態になってしまい、続く2敗の力士は5人となった。

●九日目：藤ノ川・時疾風戦は、「果敢な素早さ」と「落ち着いた巧さ」との対決で、面白かった。

時疾風の巧さに軍配が上がったが、勝者がどちらかということより中身の濃さに、会場は大いに沸きあがった。安青錦・平戸海戦は、頭を上げない安青錦と頭を上げさせたい平戸海の攻防が、予想通り

9勝	大の里	の展開となった。平戸海の執拗な攻めに手を変え品を変えて対応する安青錦が勝利、この一番も会場が沸騰した。
8勝1敗	安青錦	両横綱は貫録勝ちのような勝ち方で九日目を締め、賜杯争いは、ほぼこの四人に絞られたように見える。
7勝2敗	豊昇龍・時疾風	

●十日目：今場所元気に活躍していた朝紅龍・時疾風・藤ノ川は、後半戦になって疲れが出てきたのだろうか、黒星が目立ってきた。入れ替わるように錦富士が、目を爛々と輝かせて動き回っている。

9勝1敗	大の里・安青錦	安青錦は今日も玉鷲の猛攻をかわして落ち着いた取り口で白星を積み上げた。冷静沈着な取り口に少々驚きも感じる。
8勝2敗	豊昇龍	

大の里が義ノ富士の鋭い踏み込みに敗れて、やや腰高気味の今場所の弱点を突かれた。この結果、豊昇龍・安青錦にも賜杯の可能性が出てきたが、安青錦は明日は3敗の義ノ富士戦、両横綱との取り組みも控えており、目が離せない。

●十一日目：大きな波乱が起きてしまった。安青錦は義ノ富士の早く鋭い立ち合いと、すかさず肩口を

突く攻めにあつというまに土俵を横切って押し出されてしまった。ベテラン力士たちが果たせなかった安青錦の弱点攻略に成功したのは、下位時代から対戦して無敗だったことにあるようだった。

大の里は、すでに2勝8敗と負け越しが決定している隆の勝の激しい突きとのど輪攻めにのけぞり、さらに足がうまく運べずに滑って、隆の勝の引きにばったり落ちてしまった。大の里の今場所の取り口

9勝2敗	大の里・安青錦・豊昇龍
8勝3敗	義ノ富士・時疾風・錦富士

を見て、腰が高いのが気になっていたが、足が運べずそろってしまったところを見ると、膝か腰に何か不具合があるのかもしれない。

間に挟まった豊昇龍は王鵬を退けて、土俵下で勝ち残り。二人の敗退を見て引き上げる時の表情が何とも言えぬ意味ありげな表情だった。2敗で三人が並ぶ形になり、賜杯争いは混沌の状態になった。

●十二日目：義ノ富士は、琴櫻の俵を背にしたはたきこみに敗れてしまった。琴櫻は下がりながらのはたき込みで、もはやこれしか手がなかった、つまり9割がた義ノ富士が勝っていた相撲だった。

10勝2敗	大の里・安青錦・豊昇龍
9勝3敗	時疾風

安青錦・大の里・豊昇龍は白星を積み上げて譲らず、明日からの直接対決にもつれ込むことになった。

まずは明日の大の里・安青錦戦に注目ということか。

●十三日目：時疾風が良い形に攻めていたが、義ノ富士の逆襲に敗れて4敗に後退。攻め込まれても二の手三の手を繰り出せる義ノ富士の引き出しの多さと対応の速さが勝っていた。

豊昇龍は琴櫻を破り11勝一番乗り。琴櫻は抵抗を試みたものの、腰高の棒立ちでは相手に圧力がかかっていない。続く大の里・安青錦の直接対決は、土俵際での安青錦の回り込みながらの上手投げに大の里の足が流れてしまったが辛くも軍配を得た。スロービデオで見ると両力士ともに死に体にな

11勝2敗	大の里・豊昇龍
10勝3敗	安青錦

っており、少なくとも物言いによる確認ぐらいはあってもよかったような状況だったが、審判員は誰も手を挙げなかった。

大の里の十一日目以降の動きを見ると、「足のもつれ」があり、膝か腰かに故障があるのではないかと感じた。安青錦が落ちてしまったのは残念な気がするが、横綱二人がトップに並ぶという、興行的には理想的な形になったが、明日の豊昇龍・安青錦戦が終わるまではまだどうなるかはわからない。面白い場所になった。

●十四日目：幕内の取り組みは、藤ノ川・朝紅龍戦で始まった。似たような体格の、気合のこもった二人の対戦は、藤ノ川がやや変わり気味に立って差し手を返してすくい投げという、期待はずれな一番だった。逆に一山本・義ノ富士戦は好一番だった。義ノ富士の右差しを一山本がおっつけ、終始一山本が攻め続けて勝ったのが、相撲のタイプからすると意外な結果になった。少しずつではあるが、一山本が相撲を覚えてきていることを感じさせる一番だった。

さて賜杯争いの方だが、大の里・琴櫻戦は大方の予想を裏切って琴櫻が横綱を寄り切って大の里を戦線から引きずり下ろした。大の里は、やはり腰高で足の運びがぎこちなく、何か故障を持っているに違いない。結びの一番、安青錦は終始頭を上げることなく攻め続けて豊昇龍を土俵外に運んだ。と言うよりも、豊昇龍は安青錦を起こすことができなかったし、昨日までの安青錦の敗戦を振り返れば、彼の弱点は明確になっているのに、何ら参考にはしていなかった。勉強不足か苦手意識か。

というわけで、せっかく絞り込みが進んでいた賜杯争いは振出しに戻り三人が3敗で並ぶことになってしまった。明日、安青錦が勝てば、いずれかの横綱との優勝決定戦ということになり、マスコミの動きも騒々しくなってきた。

●千秋楽：何と殆どの人が想像もしていなかったようなことが起きてしまった。「大の里が休場」ということになった。肩の関節を脱臼したとのことだが、このところ足の運びの異常を感じたのもその影響だったのかもしれない。千秋楽結びの一番が不戦勝になるという珍事になり、千秋楽の結びの一番は、

大関と関脇の取り組みになった。その取り組みは、腰高の琴櫻が安青錦に低い姿勢で食いつかれて内無双でばったりという結末になった。

そして12勝3敗同士の優勝決定戦は、安青錦が豊昇龍の後ろについて投げるとい「送り投げ」で決着がついた。豊昇龍は、過去の戦績で安青錦に一度も勝ったことがないので苦手意識もあるのかもしれない。しかし、横綱が「後ろから攻められて四つ這いになる」というのは屈辱的な負け方と言えるので、来場所以降の豊昇龍の対応にも注目する必要がある。

まずは、新関脇で優勝を果たした安青錦に敬意を表して乾杯の夕食になった。

優 勝	殊勲賞	敢闘賞	技能賞
安青錦（12勝3敗）	安青錦（12勝3敗）	霧 島（11勝4敗） 一山本（11勝4敗）	安青錦（12勝3敗） 義ノ富士（9勝6敗）

安青錦は、初土俵（前相撲）から14場所で、序の口からの通算成績が116勝31敗（勝率 0.789）、入幕（2025年 3 月）以降は5場所で56勝19敗（勝率 0.747）という驚異的な記録で、一度も負け越しを経験していない。

最短場所数で番付を駆け上がるのもうなずける実績で、異論はないが、個人的な興味としては、「今大急ぎで大関にする」よりも、「名関脇として実績を残して」から大関に挙げてみたい力士だとも感じている。

師匠（元安美錦）の良いところと、安美錦が手にした経験知をすべからく吸収したような取り口で、この先どんな風に成長していくのかが興味深い。

さて、場所が終わり 15 日間を振り返ると、「次代を担う顔ぶれが見えてきた」というのが率直な印象の場所だった。様々な意味で、来場所が楽しみである。

以上